かささぎ 通信 第81号

毎月第2金曜日 13：30～15：30　　2019年 5月 10日 発行

刈谷市中央図書館研修室　参加自由　　森三郎刈谷市民の会「森三郎の作品を読む会」

二〇一九年四月の「森三郎の作品を読む会」では『森三郎童話選集夜長物語』（1996年、刈谷市教育委員会）所収の「赤いポスト」「秋蝉」を読みました。

二〇一二年十一月の「森三郎の作品を読む会」で「赤いポスト」を読んで、原作者ローズ・ファイルマンと森三郎作品との関わりを調べているうちに、ファイルマンはこの会にとって、馴染みの作家となりました。

「赤いポスト」（初出『赤い鳥』一九三一年十一月号）に収められているポストにまつわる二つの話が、ファイルマンの二つの話を一つにまとめたものだということを発見した時の感動は今でも忘れられません。二〇一八年出版の『赤い鳥事典』の「ファイルマン、ローズ」の項（執筆者・佐藤由美さん）でも、『かささぎ』創刊号の「森三郎とローズ・ファイルマン」（神谷）、第3号の「森三郎初期童話の出典」（鈴木哲）などが紹介されています。さらに鈴木哲さんは、『赤い鳥』の中で初めにファイルマンの作品を翻案したのは鈴木三重吉であったこと、「赤いポスト」の中の二つの話は、『赤い鳥』発表より後（一九三二年十一月）に出版の高瀬嘉男『動物新童話集』にはファイルマンの原作通り二つの別の話として載っていることなどを「森三郎はいかにしてローズ・ファイルマンを知ったか」（『桜花学園学芸学部研究紀要』第9号）で紹介しています。

ところで高瀬嘉男＝無絃（一九〇一～一九八三）は、『赤い鳥』一九三二年五月号の「講話通信」欄に、『赤い鳥』推奨の書簡が載っています。また一九三三年五月号には高瀬嘉男著『案山子になつた鳶』の『赤い鳥』の読者の方々に、ぜひ読んでいただきたい本です」という広告文があります。高瀬は大阪朝日新聞社で「アサヒ・コドモの会」を担当、三重吉はコドモ会開催に合わせ『赤い鳥』を送っています。

この「アサヒコドモノカイ　コドモの本」（一九三七年五月）に、森三郎の未見の「お話」が二つ載っていることを、今年の一月に酒井晶代先生が発見されました。森三郎は『赤い鳥』時代から高瀬嘉男を知っていて、その縁で「赤い鳥」終刊後に「アサヒコドモノカイ」の本に童話を発表したのでしょうか。

「『赤い鳥』―ローズ・ファイルマン―鈴木三重吉―森三郎―高瀬嘉男」という躍動的なつながりが目に見えるようです。「森三郎の作品を読む会」を通して、皆で作品を読んでいるからこそ分かったことです。

「秋蝉」（初出『赤い鳥』一九三四年二月号）は、尋常小学校卒業を前に初めて人生の岐路に直面する十二歳の少年の話です。主人公は、小学校卒業後時計屋へ奉公に行くと決まっていることを友だちに正直に言い出せません。泣きだしたくなるようなさびしい秋蝉の鳴き声と主人公の気持ちを重ねている終わり方が印象的だと、読後の感想が出ました。

次回「森三郎の作品を読む会」

二〇一九年六月十四日（金）午後一時半～三時半

「羅生門」「けいと」「こうもり傘」（『森三郎童話選集　夜長物語』）

「第7回　森三郎に親しむ集い」

日時　二〇一九年六月二日（日曜）午後一時半～三時（受付一時～）

会場　刈谷市中央図書館　三階　大会議室（自由席二百人）

森三郎童話紙芝居十作目の「赤鬼青鬼」を上演します！

関連行事　文化講演会（主催　刈谷市郷土文化研究会）

四日市大学特任教授　David Dykes さん

「女の子か？くまの子？『3びきのくま』はだあれの話？」

日時　二〇一九年六月九日（日曜）午後一時半～三時（開場午後一時）

会場　刈谷市中央図書館　二階　視聴覚室（入場無料、一般参加歓迎）

Dykes さんは、「森三郎の作品を読む会」の番外編「ローズ・ファイルマン Rose Fyleman の作品を読む会」（二〇一七年）、「ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）“The Soul of the Great Bells”を読む会」（二〇一八年）の時にも、示唆に富んだお話をしてくださっています。